

	社会実装に向けた課題	今後の方向性
実験総括	<ul style="list-style-type: none"> 将来のモビリティ・ビジネスモデルを考えながら議論が大事 実験期間が短期間だったため、採算性や冬期間の課題が十分に抽出されていない 	⇒北海道の地域特性や利用者のニーズを考慮し、採算性や冬期の課題を抽出し、全道展開できる実験の実施
サービス ・ ネットワーク	<p>(地域内の自動運転の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産空間を支えるには距離が離れている漁村・農村地帯と道の駅を連結する仕組みが必要であり、デマンドにも対応できるような仕組みも必要 一方、自動運転走行経路では、走行ライン設定等が必要であり、持続性確保の観点から、上記展開に当たっては、走行経路を絞り込む必要 経路設定の際は、下記を考慮する必要(自動運転の「階層性」の設定) <ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズや道路走行環境 市街部(短距離・低速)と郊外部(長距離・中高速)、バスタイプと小型モビリティタイプ、LV2とLV4など各タイプの自動運転の使い分け LV4とした場合の専用空間確保(規制に対する地域の理解含む) 様々なモビリティ・物流を結節させる場所としての道の駅 <p>(広域バスとの連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高次医療を担う圏域中心都市の帯広までの移動時間を短縮するため、路線バスが高規格道路を利用するようにし、現道沿いの既存バス停へは、自動運転によるサービス提供を行う等検討が必要 乗り継ぎの抵抗が少なくなるよう、ノンステップバスを導入してはどうか 広域路線バスとの乗継時に待合スペースの確保が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒デマンド対応の検討 ⇒郊外部展開の検討 ⇒地域のニーズや道路走行環境、自動運転車両やLV2とLV4の使い分け、道の駅の役割を踏まえた自動運転走行経路の検討 ⇒LV4専用空間の確保方策検討 ⇒広域バス(高規格道路利用)の検討状況を踏まえた自動運転サービスの検討
安全確保 積雪対応	<ul style="list-style-type: none"> 除雪体制・水準が課題となる可能性(今後要検討) 積雪による駐車マス区画線の消失への対応が必要 路上駐車、住民による路上への雪出し対策が必要 自動運転車両の走行ラインを天候や積雪状況に応じて柔軟に変更できる仕組みや、ブレーキに違和感がないような対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒冬期間の課題の深掘り(積雪や視界不良時の課題の把握と除雪体制や水準の検討) ⇒施設や近隣住民との連携体制構築 ⇒実験車両走行の技術的改善、柔軟に変更可能な走行ラインの設定
役割分担 費用分担	<ul style="list-style-type: none"> 社会実装に向けては多様な事業者に参加してもらい、効果の実感・リスク課題の共有が必要 その上で地域全体として役割分担、体制構築の議論が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒事業者(宅配・交通・観光事業者等)参画による検討 ⇒社会実装に向けた連携体制・役割分担の検討(共有)
その他	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅のほか高規格道路ICなどとの交通結節機能の確保が必要 	⇒実証実験の実施